

心 動 不 動

令和 2 年 3 月
第 5 8 号
発行 普 照 院

今回のお彼岸の全ての配布物に関して、印刷の汚れ・にじみ等があります。印刷機の不調が原因ですが、まだ機械機能は故障していませんでしたのでそのまま使用させていただきました。読み難い箇所もあるかとは思いますが、ご容赦下さいますようお願い申し上げます。

お釈迦様 と 一遍上人

インドから中国を経て日本に仏教が伝播していく中で、そのお釈迦様の教えの解釈の違いなどで「宗派（宗旨）」というものが生まれます。日本にも〇〇宗開祖と呼ばれる高僧が、歴史の教科書にも登場しますね。

さて普照院の宗派は時宗ですが、その開祖は『一遍上人』（以下、開祖に付けるべき「上人」号は省略します）です。その一遍は鎌倉時代後期に活躍された僧侶ですが、この令和の時代に現存する宗派の開祖と呼ばれる高僧の中で、一遍だけと言ってもよいくらいの『ある特徴』があります。それは何かと言いますと、一遍以外の各宗派の開祖は寺などを中心にそこで生活をしながら布教活動を展開していましたが、一遍は一ヶ所に長期定住することなく、時宗を開宗してからその臨終の時まで、生涯に渡り旅を続けたということです。

さてその『旅をしながらの布教を死ぬまでお続けになった方』が、世界に目を向けると一遍以外にも仏教の歴史の中におられます。それは上記タイトルにもありますが、仏教開祖である「お釈迦様＝ガウタマ・シッダールタ」です。これは偶然の一致なのでしょうか？ちなみに私が総本山の修行期間中に時宗のことを勉強している中でいつも疑問だったのが、上記の『日本の各宗派の開祖は寺を中心とした布教活動であったのに、なぜ一遍だけが遊行という旅をしながらの布教活動を行ったのだろうか。』ということでした。

これは私の勝手な解釈ですが、一遍はあえてお釈迦様と同じ布教活動を行うことで仏教の心（＝一切衆生悉有仏性：生きとし生けるものは、すべて仏陀になる可能性（仏性）をもっており、すべての人は悟りうることを）を、当時の民衆に身をもって伝えようとしていたのではないのかな、と思っています。お寺から、つまり常に衣食住の心配が不要の環境からやってきた僧侶の説法より、人々と同じ、いやその中でも特に貧困で衣食住もままならない方々と同じ立ち位置に自分の身を置くことで、それでも『心は仏と共にあることができること』を一遍は実践してみせていたのではないかな、と総本山での修行が終わるころに感じることができました。

そしてこのような遊行という一生涯をかけた修行の旅を行うためには、もちろん何でもかんでも持って行くことはできません。お釈迦様も一遍も、生活における必要最低限のものを携行するにとどまりました。小欲知足、断捨離という言葉が昨今見聞きしますが、私たち人間の最後の旅の始まりは、「死」です。その旅路はいつ始まるのか分かりませんし、何も持って行くことはできません。つまり自分の所有物の全てを、ある日突然この世に置いて行かなければならないのです。皆様の日々の生活の中で、お釈迦様や一遍ほどではないにしても、そのことを少し頭の片隅に置きながら生活をしていただければと思います。

【令和2年のお寺行事（予定）】

月	日	行事	内容
3月	20日	春彼岸墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。
	23日	春彼岸塔婆供養会	午後2時より、本堂にて。
4月	8日	釈迦生誕祭(花祭り)	花見堂を設置しております。随時お参り下さい。
8月	7日	盆墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。
	16日	盆施餓鬼 ・初盆精霊供養法要	午後2時より、本堂にて。 併せて本年の初盆精霊をお供養します。
	23日	地藏盆【地域行事】	午後6時より、本堂地藏尊前にて。
9月	22日	秋彼岸墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。
	25日	秋彼岸塔婆供養会	午後2時より、本堂にて。
12月	8日	成道会・永代塔納骨供養	舞子墓園 当寺院永代供養塔前にて。
	27日	歳末墓参	午前中、舞子墓園普照院墓地にて。

*変更等がある場合は、後日ご連絡させていただきますので、ご容赦下さいませ。

住職の予定について

今年の1月から住職はアルバイトに出ていることがあり、法事やお月参りでは、皆様の希望日時にお参りに行けないことが多々発生してご迷惑をおかけしております。今後共、ご協力の程何卒宜しくお願い致します。

また上記の理由から、お寺を不在とすることも多くありますので、ご来寺の際にはお電話等で必ずご一報いただきますよう切にお願い申し上げます。

本堂定期補修のご寄付の経過報告 : 2月25日時点 - 3,705,000円

ご協力いただき誠にありがとうございます。施工は2025年を予定しておりますので、ご寄進のお申込みは継続させていただいております。何卒宜しくお願い申し上げます。

〔編集後記〕今年が始まりいきなり全世界を震撼させている「コロナウイルス騒動」。日本でも、その感染予防の対策に追われているようです。またその影響で各種行事・イベントが中止になっていますが、神戸新聞2月22日付『イベント一律自粛は求めず』により、今後の感染推移に注意しながらも、当寺院の各種行事は厳かにお勤めする予定です。何卒ご理解・ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話 078-671-1787 ファックス 078-330-1187

ホームページ <http://fusyojin.com/>



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげてください。